

仙台大学 広報室

Monthly Report

元オリンピック選手を講師に招き「新体操講習会」を実施—仙台大学と柴田町との連携事業「トップアスリート育成事業」



秋山エリカ氏を囲んで集合写真＝仙台大学新体操場

本学は柴田町からの委託を受け、柴田町の地方創生のプランの一つとして「トップアスリート育成事業」を進めております。同事業では、①総合型スポーツクラブの支援・②小中学生の体力測定と運動能力向上・③放課後の学習、部活動指導・④トップアスリートによる指導・⑤スポーツイベントの開催を推進しております。

3月8日(火)、「トップアスリート育成事業」の一環として、本学第四体育館新体操場で、新体操の個人でロサンゼルスとソウルのオリンピック2大会に出場された秋山エリカ氏(現東京女子体育大学教授)を講師に招いて、仙台大学ジュニア新体操教室らの約50名の子ども達を対象に、新体操の基本動作を指導する講習会が実施されました。

秋山氏は、子ども達と一緒に、音楽に合わせてジャンプ・バランス・ターン・柔軟などの基本動作を中心に、ボールを使用して、芸術性の高いスポーツである新体操の魅力を伝えていました。

同講習会終了後、秋山氏は「今日は子ども達と一緒にレッスンができて楽しかったです。柴田町・仙台大学から新体操のオリンピック選手が輩出されることを心から楽しみにしています。また機会があれば、ぜひ講習会を開催させて頂きたいです」。講習会に参加した白石第二小学校3年の森小夏さんは、「ボールの腕転がしの基本動作や、柔軟運動を教えてもらえて嬉しかったです。将来は、秋山先生のような新体操のオリンピック選手になりたいです」と話してくれました。

< 目 次 >

元オリンピック選手を講師に招き「新体操講習会」を実施—仙台大学と柴田町との連携事業「トップアスリート育成事業」	1
仙台大学「平成27年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式」を開催	2
529名が思い出の学び舎巣立つ—仙台大学卒業式・大学院修了式	3
仙台大学スポーツ情報サポート研究会が「奨励賞」を受賞	4
4つの海外研修プログラム報告／デンマーク・フィンランド・タイ・台湾	5
現時点で有力なリオ&リオ・パラ代表候補選手等の紹介—仙台大学関係者	7

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツを英語で語るキャンパス創り

"A campus for Sports Education through English"
—LET'S TALK SPORTS IN ENGLISH!—2017年創立50周年
50 years Anniversary of Establishment in 2017 SENDAI UNIVERSITY Since 1967

SPORTS FOR ALL ～スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に～

仙台大学「平成27年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式」を開催



角田市教育委員会の笹森泰弘教育専門監(中央)から感謝状を受け取った二川目さん(左)と大庭愛理さん(健康福祉学科3年—宮城・村田高校出身)(右)
=仙台大学

3月8日(火)、本学第五体育館大教室で「平成27年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式」が開催されました。小・中学校での学習支援や運動学習支援、特別支援学級授業支援、親子レクリエーション支援などを行なった本学学生全員の名前が読み上げられ、仙台市・柴田町・岩沼市・名取市・大河原町・角田市・大崎市の各教育委員会の担当者から、代表の学生一人一ひとりに感謝状が手渡されました。

感謝状贈呈式で岩沼市教育委員会学校教育課の奥野光正課長は、「子ども達にとって学生達は憧れの存在。子ども達は、憧れの背中を追いかけて成長していきます。学生の皆さんには、学校支援ボランティアの経験を、今後の人生の中で生かしてほしい」。名取市教育委員会学校教育課の荒明聖指導主事は、「鉄棒やマット運動など子ども達の苦手分野と一緒に取り組んでくれ、仙台大生にはとても感謝しています」。仙台市教育委員会教育指導課の猪股亮文主幹は、「仙台大生は積極的にコミュニケーションを図り、

子ども達からも好評でした。子ども達との関わりを通して、有意義に成長してほしい」と学校支援ボランティアの学生たちに激励と感謝の言葉を述べられました。

本学の阿部芳吉学長は、「震災から5年。学生たちの主体性が世の中を変えていく力になる。18歳から選挙権が与えられるようになり、学生たちの意見が求められるようになった。学校支援ボランティア活動をこれまで以上に活発に行なっていきたい。学生達へのご指導をぜひお願い申し上げます」と御礼の挨拶を述べられました。

角田市教育委員会から感謝状を贈呈された二川目菜緒(ふたかわめ・なお)さん(健康福祉学科4年—宮城・塩釜高校出身)は、「利用者さんの笑顔がたくさん見たいと思い、4月から介護施設で働くことになりました。学校支援ボランティアで学んだ“人のために役立つ”という強い気持ちで、介護の現場でも体育大生らしく笑顔を大切に、明るく元気な態度で頑張りたいと思います」と話してくれました。

なお、今年度は、仙台市91名・柴田町19名・岩沼市35名・名取市51名・大河原町6名・角田市10名・大崎市2名の計214名の学生が感謝状授与者となっております。



男子サッカー部・DF榎本滉大選手(体育学科3年)—今季もベガルタ仙台の特別指定選手に承認



DF榎本滉大選手

3月4日(金)、本学男子サッカー部のDF榎本滉大(えのもと・こうだい)選手(体育学科3年—群馬・共愛学園高校出身)が昨年に引き続き、ベガルタ仙台の特別指定選手に承認されました。特別指定選手とは、大学に所属しながら、Jリーグのクラブにも登録され、公式戦に出場できる選手。本学男子サッカー部からは、これまでも、OB細川淳矢選手(現J2水戸/平成19年体育学科卒—埼玉・武南高校出身)・OB奥埜博亮選手(現J1仙台/平成24年体育学科卒—宮城・明成高校出身)・OB蜂須賀孝治選手(現J1仙台/平成25年体育学科卒—群馬・桐生第一高校出身)らが本学在学中に特別指定を受け、卒業後はJリーグ入りを果たしました。

<榎本滉大選手の経歴>

小学校2年でサッカーを始め、高校時代まで無名の選手。仙台大学サッカー部では、3年時からレギュラーに定着。2015年の北海道・東北選抜のメンバーとして、デンソーカップサッカーに出場し、ベストイレブンに選出される。2015年・2016年ベガルタ仙台特別指定選手。身長183cm/体重73kg。

529名が思い出の学び舎巣立つー仙台大学卒業式・大学院修了式



阿部学長から「卒業証書・学位記」を受け取る体育学科総代の神田さん
＝仙台大学第五体育館

3月12日（土）、本学第五体育館で「平成27年度仙台大学卒業式・大学院修了式」（第46回体育学部「卒業証書・学位記」授与式並びに第17回大学院「学位記」授与式）が挙行されました。体育学部516名（体育学科280名・健康福祉学科99名・運動栄養学科71名・スポーツ情報マスメディア学科35名・現代武道学科31名）及び台湾の台東大学との国際交流提携に基づく4回目のダブルディグリー制1名、並びに大学院スポーツ科学研究科12名のあわせて529名が所定の課程を修了し、「卒業証書・学位記」が授与され、思い出の学び舎を巣立ちました。

開式に先立ち、発生から5年を迎えた「東日本大震災」で津波の犠牲となった、本学に在籍していた学生3名に対し、会場にいる全員で黙とうを捧げました。

また、スポーツ競技や文化活動等において、特に顕著な功績を挙げた学生を表彰する「平成27年度学生表彰式」も併せて行なわれ、「理事長特別賞」を受賞した陸上競技部の加藤由希子さん



（2014アジアパラ競技大会女子砲丸投げ「優勝」／健康福祉学科4年－宮城・気仙沼女子高校出身）他3名に、朴澤泰治理事長から賞状及び記念品が授与されました。「学長賞」を受賞したボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜さん（第22回オリンピック冬季競技大会ボブスレー男子4人乗り「第26位」／運動栄養学科4年－神奈川・橘高校出身）他10名には、阿部芳吉学長から賞状が授与されました。「日本介護福祉士養成施設協会会長賞」は山田瑞穂さん（健康福祉学科4年－宮城・小牛田農林高校出身）が、「全国栄養士養成施設協会会長賞」は遠藤真莉香さん（運動栄養学科4年－福島・須賀川桐陽高校出身）がそれぞれ受賞しました。

宮城県の教員採用試験に合格し、4月から県内の小学校で勤務することになっている体育学科総代の神田桃花さん【写真】（体育学科4年－宮城・富谷高校出身）は「挑戦と出会いの4年間でした。特に、フィンランドの短期留学と学校支援ボランティアの経験を通して、視野が広がり、色々な観点で物事を見るようになりました。4月からは、教師という責任の大きさを考えると不安もありますが、子ども達から学ぶ姿勢を忘れず、目の前にいる子ども達のために一生懸命頑張りたいです」と力強く決意の言葉を話しました。

卒業生のますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げます。



学位記を手にする大学院の修了生たち



卒業式を終え、笑顔を見せる学部の卒業生たち



BLS部の後輩たちに胸上げて祝福される黒岩さん

仙台大学スポーツ情報サポート研究会が「奨励賞」を受賞



「奨励賞」を受賞したスポーツ情報サポート研究会所属学生たち
＝仙台大学映像スタジオ

平成28年2月16日（土）、せんだいメディアテーク7階スタジオシアター（仙台市青葉区）で「平成27年度仙台市自作視聴覚教材審査会」（主催：仙台市教育委員会）が開催され、仙台大学スポーツ情報サポート研究会の出品した作品「東日本大震災と体育」（DVDビデオ約20分）が社会教育部門において「奨励賞」を受賞しました。

同自作視聴覚教材審査会の開催趣旨は、「学校教育及び社会体育ともに学習内容が多様化し、学習内容に対応するきめ細かい自作教材の制作と確保が極めて重要になっている。また、郷土の自然、歴史、文化等に関する

視聴覚教材の充実が強く求められている。そこで、視聴覚教材自作活動の促進と内容の充実、制作技術の向上を図るため、同審査会を開催する」というものです。

審査員による仙台大学スポーツ情報サポート研究会の出品した作品への講評では、「テーマのインパクトが強い」「体育の中に心と体のバランスの視点があったので良かった」「丁寧にインタビューを重ね、体育の役目を現場の声から収録することに成功していた」「被写体の撮影に安定感があった」など好意的に受け止める意見が多く寄せられました。

「奨励賞」受賞作品の「東日本大震災と体育」DVDビデオの制作に、主体的に取り組んだスポーツ情報サポート研究会の豊川広菜（とよかわ・こうま）さん【写真前列中央】（スポーツ情報マスメディア学科2年－宮城・泉松陵高校出身）は「ビデオカメラの撮影とデータの編集を担当しました。企画・演出・撮影・編集などの一連の作業を学び、映像制作のやりがいと大変さを感じました。取材を通して、たくさんの人たちに出会えたことは、本当に勉強になりました。将来はメディア関係の仕事に就き、物事の本質部分をしっかりと伝えていきたいです」と話してくれました。

健康づくり運動サポーター 認定証書授与式を開催



平成28年3月11日（金）に健康づくり運動サポーター（以下、健サポ※）の認定証書授与式を開催しました。健サポは本学独自の認定資格であり、地域の健康づくりに貢献できる人材の育成を目的として、平成19年度に文部科学省の現代GPに採択され、養成がスタートしました。

これまで延べ441名が本資格を取得しています。今回は平成27年度後期の資格認定評価会で認定された初級11名、中級1名、上級2名の計14名に対して、認定証書が授与されました。

初級を取得した大場萌子さん（運動栄養学科3年）は「現場実習を通して、指導者として安全な運動教室実施のためのサポートの方法や、人と接する際のコミュニケーションの仕方を学んだ。これから就職活動が始まるので、健サポで対人スキルを存分に発揮していきたい」、上級を取得した佐藤達也さん（体育学科4年）は「上級実習を通して、地域の方と協力して一つのイベントを成功させる達成感を味わうことができました。自分が上級まで取得できるとは思っていなかったが、挑戦して本当に良かったと思う。社会に出てもこの経験を活かしていきたい。」とそれぞれコメントしました。

学生たちは現場での実習を通して、私たちの想像を超える学びを得ることができていると感じています。今後も多くの健サポ資格者を輩出し、学生たちが実践力を身に付けて社会で即戦力として活躍できるよう尽力していきたいです。

<報告：新助手 齋藤まり>

4つの海外研修プログラム報告／デンマーク・フィンランド・タイ・台湾

2016年2月23日から3月7日にかけて、デンマーク国リレベルト大学における健康教育プログラムが実施されました。今回のプログラムは健康福祉学科より、小野寺理奈(2年)、金千晶(2年)、増井大悟(1年)の3名の学生が参加しました。また、荒井龍弥国際交流センター長(2月23日から2月27日)、遠山知寿事業戦略室職員(2月23日から2月27日)、松浦里紗新助手(全日程)が引率しました。

本研修は、世界一幸福な国として知られるデンマークでの「福祉・医療・教育」等の視察、デンマーク国民との交流体験などを通して、健康福祉の考え方や国際理解を深めることを目的としています。

研修内容として、リレベルト大学教員による講義や校内・授業の見学、ノアフュンス国民大学教員による「デンマークの民主主義と社会福祉について」等の講義やワークショップなどがありました。また、国民学校や家庭医、知的・身体障害者施設などの施設見学や高齢者施設において、入居者との交流も体験しました。



バーノップ国民大学では、3名の学生が仙台大学の紹介と日本の文化についてプレゼンテーションを行いました。



プレゼンテーションの様子
増井さん(左)小野寺さん(右)



箸の使い方を説明
金さん

金千晶さん(健康福祉学科2年)は、「現地の施設の様子を見学することができ日本との違いを知ることができました。また、現地の方々との交流がとても楽しかったです。これからは英語の勉強にも励みたいですね。」増井大悟さん(健康福祉学科1年)は、「初めての海外でしたが、生活などの文化を知ることができました。また、将来のヒントを見つけることができました。」等、学生は様々な刺激を受け、今後の大学生活に向けて意欲的に話をしていました。

本研修は、本学客員研究員の高橋まゆみ先生をはじめ、現地の各関係校の方々にも大変ご協力いただきました。また、このような機会を与えてくださいました朴澤理事長、阿部学長、はじめ多くの関係者の方々に深く御礼申し上げます。



<報告：新助手 松浦 里紗>

この他、2016年2月～3月にかけて、以下の派遣プログラムも実施されました。

1.フィンランド「スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」

留学先：カヤーニ応用科学大学

期間：2月8日～3月8日

参加学生：体育学科 永田拓真(1年)、
運動栄養学科 堀内くるみ(2年)



2.タイ「スポーツ・異文化交流プログラム」

留学先：シーナカリンウィロート大学

期間：2月8日～19日

参加学生：体育学科 今野杏夏、納寛大、島橋元弥、庄子秀人(1年)、
運動栄養学科 小川純(2年)、熊谷昂司朗(1年)、
現代武道学科 佐藤陽平(3年)



3.台湾「国際交流協定校短期交換留学プログラム」

留学先：台東大学

期間：2月24日～3月24日

参加学生：健康福祉学科 田村暁(1年)



これらは、協定校の正課授業に仙台大学の学生が参加することを基本として実施されていることが他の海外研修プログラムとは大きく異なる特徴です。そのため、学生が主体的に行動し、自ら国際交流の輪を広げています。この詳しい内容は、4月の海外留学・研修報告会で派遣学生たちから直接報告されます。どなたでも出席できますので、学生たちの貴重な経験、学びの成果を是非お聞きください。

東日本大震災から5年～祈りを込めて～



3月11日（金）、東日本大震災から5年、あの日と同じ金曜日を迎えた午後2時46分、柴田町の防災無線のサイレンが鳴り響く中、慰霊碑前に集まった学生、教職員ら約300名が犠牲となった本学の学生3名に黙とうを捧げ、献花台でお焼香をしました。

阿部学長は、津波で流されつつある祖母がその自分の姿を孫に見せまいとして、こちらを振り向くな、お前が助かって万歳、万歳と言いながら濁流に吸い込まれていったという実話を紹介し、生きることの厳しさと尊さを説かれました。本学では女川をはじめ被災地への継続したボランティア活動が行われ、震災を風化させないための地道な努力と魂が、今後もしっかりと学生達に引き継がれて参ります。

 仙台大学関係者

現時点で有力なリオ&リオ・パラ代表候補選手等の紹介

ボート



大元 英照 (おおもと・ひでき)

アイリスオーヤマ株式会社／平成19年仙台大学卒－宮城県塩釜高校出
生年月日:1984年8月12日(31歳) 出身地:宮城県塩釜市

- ・2006年/2010年/2014年 アジア大会ボート男子軽量級ダブルスカル 優勝※三連覇
- ・2014年世界選手権ボート男子軽量級ダブルスカル 21位

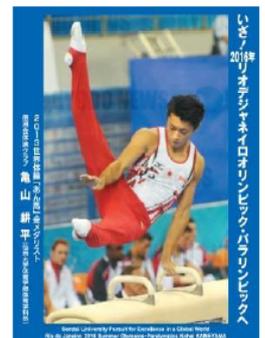
体操



亀山 耕平 (かめやま・こうへい)

医療法人徳州会／平成23年仙台大学卒
生年月日:1988年12月28日(27歳) 出身地:宮城県仙台市

- ・2013世界体操競技選手権・あん馬で「金メダル」獲得
- ・2014世界体操競技選手権団体で「銀メダル」獲得



陸上競技(パラ)



加藤 由希子 (かとう・ゆきこ)

SMBC日興証券株式会社／平成28年仙台大学卒－宮城県気仙沼女子高校出
生年月日:1993年8月2日(22歳) 出身地:宮城県気仙沼市

- ・2013IPC陸上競技選手権大会 女子やり投げで「銅メダル」獲得
- ・2014仁川アジアパラ競技大会陸上競技 女子砲丸投げで「金メダル」※世界新記録樹立
(同大会の円盤投げでも大会新で「金メダル」獲得)

女子柔道(監督)



南條 充寿 (なんじょう・みつとし)

仙台大学准教授／全日本柔道女子監督
生年月日:1972年4月30日(43歳) 出身地:愛媛県松山市

- ・2013年3月全日本柔道女子監督に就任



【コーチ】 田中礼人(財団法人日本卓球協会／ロンドンオリンピック卓球男子フィジカルコーチ
平成19年仙台大学卒)

【役員】 脇本昌樹(財団法人日本オリンピック委員会／
平成14年仙台大学卒－平成16年仙台大学大学院修了)